

大國隆正

たけのりか
たけのりか

國學者。寛政四年十一月二十九日江戸（津和野藩邸）

生れ、明治四年八月十七日歿（二七九一—一八七二）。舊姓山本、今井、野之

口、字子蝶、通稱一造、匠作、仲衛、大國仲藏、總一郎、初名秀文、

秀清。號作紀乃（之・逆）屋、天柱山人、天隱、如意園、如意山人、

居射室、戴寧、道爾園、眞境園、葵園等。文化二年平田篤胤の門に入

り國學を修むる。昌平坂學問所で儒學を、村田春門の音韻學を學ぶ。

文政元年長崎の遊學、十一年脱藩、天保六年京坂地方で國學を講じ、

翌年播磨小野藩に招かれ歸正館を設け、十一年上洛して私教館木學舎

を開いた。嘉永四年歸藩し藩費養老館を監督。維新後は内國事務司權

判事、神社事務司權判事等々を務めた。門下は玉松操、福羽美靜等。著

述多數。

又獻の『大國隆正翁歌集』（昭和十四年八月十五日島根・桑原秀武編

刊）、圓尾辰男著『大國隆正大人と日本精神』（昭和十五年七月十五

日兵庫・兵庫縣立小野中學校）、大月隆俊著『大皇信御大國隆正』（昭

和十七年二月）二十五日産業經濟社）、河野省二著『やまごころ』大

國隆正の思想』（文部省教學司編、昭和十八年一月二十七日内閣印刷

局『日本精神叢書』（大崎勝澄著『大國隆正』（昭和十八年十月五

日大日本雄辯會講談社）、岡田實著『大國隆正』（昭和十九年六月）

十五日地人書館『維新勤皇遺文選書』）等。